

令和7年度（2025年度）第3回東海市健康づくり推進会議 会議録

○開催日時 令和8年（2026年）2月26日（木）

午後2時から3時30分まで

○開催場所 しあわせ村健康ふれあい交流館 多目的ホール（1階）

○出席者氏名

委員：塚本純子（会長）

原田留美、高橋智子、高木眞子、朝倉直子、杉山勝俊、樫丈一郎、下村厚子、山下妃呂巳、久野文代、加藤剛、村井亮太、小林洋介、久野彰子、市川智子、大嶋一彰、橘洋子

事務局：健康推進課長 内山貴裕、同統括主幹 柘植由美、

同主幹 長坂友子、同主任指導保健師 伊豫田しのぶ、

同統括主任 天野愛作、蟹江孝俊、同指導保健師 小塚恵子

同主任保健師 有田裕紀、同主任 百松遥、同主任栄養士 中村利江、

同歯科衛生士 尾崎麻衣子

○欠席者氏名 宝達真志、七尾勝弘、福崎和生、宇佐見真二、富山直輝、神野真輔、小島なをみ

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の数 0人

○議題及び審議の概要

1 開会

2 議題

(1) 令和7年度事業の振り返り、令和8年度の事業展開に向けて

3グループに分かれ、事務局から会議資料1「第3次東海市健康増進計画 事業・活動確認表」に基づき、令和7年度の実施事業や、令和8年度の事業展開等について説明を行い、グループごとに意見交換を行った。

その後、グループごとに意見発表を行い、全体で意見交換を行った。

## Aグループ 【資料1 基本施策1】

### 施策「1-1 定期的に健康状態を振り返ることができる人を増やす」について

- 令和7年度の実施状況としては、国民健康保険に加入する40歳～64歳の方を対象とする特定健康診査や、職場等で受診機会のない16歳から39歳までの方を対象とするフレッシュ健康診査、各種がん検診を実施している。受診率向上や未受診者対策としては、市広報やLINE等を通じた啓発や、がんの無料クーポン発送、特定健診の未受診者への受診勧奨はがきの送付等をしているが、受診率の向上へ結びついていかないのが現状である。
- 受診しない理由として、仕事等で時間がないということが考えられるが、市民は得になることがなければ検診を受診しないのではないかと、検診を受ければ商品券や割引券がもらえる等のインセンティブを設けることを検討してはどうか。
- 健診受診率について、東海市よりも受診率の良い近隣市町の実施方法を分析し、東海市の実施方法の参考としてはどうか。

### 施策「1-2 健康的な生活習慣に取り組む人を増やす」について

- 令和7年度の実施事業としては、特定保健指導や健康相談事業に加え、今年度から骨粗しょう症検診を実施しており、市民の生活習慣の改善に向けた取り組みを行っているが、保健指導利用率の低迷等の課題がある。また、飲酒や喫煙対策については、啓発を実施してはいるが、明確な対策につなげることが難しいのが現状である。
- 保健指導の利用率や健康診査の受診率について、基準値の設定はあっても、具体的な目標値の設定などが無いため、年度ごとに〇〇人を利用させる、受診率を〇〇%にする、というように目標を明確にし、結果を分析する必要があるのではないかと。
- 喫煙者は減少していると思われるが、煙草も酒も違法ではないため、行政ができることに限りがあることは理解できる。子どものころから飲酒・喫煙のリスクやマナーについて家庭や学校等、多方向から啓発し、将来的な減少につなげてほしい。

### 施策名「1-3 口の健康を大切にしている人を増やす」について

●むし歯予防に関しては幼児期からのフッ化物歯面塗布に加え、年長児及び小学生にフッ化物洗口を実施した。中学生は授業時間の都合上、フッ化物洗口は未実施である。今年度からフッ化物洗口のフッ化物イオン濃度に変更になったが円滑に実施できている。

●口腔機能の健診を含めた後期高齢者歯科健康診査を今年度から導入し、歯周病検診（フレッシュ含む）に比べ受診率が良い。

また受診者が後期高齢者であることから口腔機能の検査の理解が難しいこともあるため、口腔機能向上に向け医療者が受診者の理解を得られるよう努める必要がある。

●歯周病検診は、指標の改善（中学生の歯肉炎の罹患率の低下）があり、取り組みが功を奏している。また、かかりつけ歯科医があるかないかによって受診率が違うため、かかりつけ歯科医を持つことの重要性の啓発も必要である。

また、受診率の良い他市町を参考に啓発活動を見直していく。

●お口と体の健康イベントでは「大腸がんクイズラリー」を実施している。大腸がん以外のがんにも取り入れ、幅広い世代に周知していくとよい。

●質疑なし

## Bグループ 【資料1 基本施策2、5】

施策「2-1 適量やバランスの良い食生活を送っている人を増やす」について

●令和7年度の実施事業については、両親学級の開催や子育てオンライン相談など母子や乳幼児への施策、トマト de 健康フェスティバルの開催や健康応援メニューの提供など成人への施策というように、幅広い層へライフコースアプローチを意識した事業の展開ができていると考える。

●働く世代（青年期・壮年期）は多忙で、時間的制約を強く受けるため、子育てオンライン相談や、健康応援メニューのWEB提供など、WEBを活用することが有効策になると考える。

●子育てに関しては、男性が育児参加する機会が増えてきたが、母親に比べ父親が子育ての情報に触れる機会が少なく、知識に差が生じやすい。育児支援は、女性のみを対象とするのではなく、父親や祖父母も一緒に参加できるような子育てサロンや情報提供など、多世代での参加の場の充実が必要であると考え。

## 施策「2-2 食の大切さへの理解を深め、心豊かな食生活を送っている人を増やす」について

●トマト給食や給食レシピコンテスト、トマト新聞の配信は、市内の幼児や小中学生にかなり浸透しており、幼少期からの食育に大きく貢献していると考えられる。

また、親子での交流を形成するコンテンツとしても大変有効であり、継続的な実施を望む。

●経験談ではあるが、料理はほとんど行ってこなかったが、男性料理教室に参加して、「自分でも作れる」という自信を持ち、料理作りを始めるきっかけになったという意見があった。

健康づくりを始められていない人にとって“きっかけづくり”は非常に大切であり、料理教室や、野菜収穫体験など、体験型で楽しめるコンテンツを健康づくりの導入口にするとより有効であると考えられる。

## 施策「5-1 誰もがすこやかに生活できる環境をつくる」について

●とりまく環境では、自然に、無理することなく健康的な行動取るということが無関心層へのアプローチとして、とても大切だと考える。

●市で今後、市内のスーパーと共同して、減塩商品を集めた減塩コーナーの設置などを行い、日常生活環境の中で、減塩を始めるきっかけづくりができる環境整備として、減塩プロジェクト事業を実施するが、現況は減塩商品を使用していない人も多く、「味がうすい。味気が無い。」というイメージを持っている人も多い。

減塩商品でも味もおいしく、満足感もあるということを知ってもらうために、試飲・試食イベントの活用が、減塩をはじめる良いきっかけ作りになるのではと考える。

### ●質疑（樫委員）

「2-1 適量やバランスの良い食生活を送っている人を増やす」について、グループワーク内での施策の検討については、バランスが良い食事が摂取できていない層（母子家庭、独居老人、低所得者など）を対象に議論したのか。一般的な層について議論したのか。

## ●回答（事務局）

一般的な層への対策について議論を行った。適正な食生活を送ることが困難となる層への施策も非常に大切だと認識しており、引き続き対応を実施していく。

高齢者などの低栄養指導については、所得などに関わらず、検査した結果、低栄養と判定された方に対し、本人の希望により、訪問・指導を実施している。

## Cグループ 【資料1 基本施策3、4】

### 施策「3-1 自分に合った身体活動をしている人を増やす」について

●子どもの運動する機会は、働き方改革等の影響もあり、部活動が廃止するなど教育課程で減少しているが、民間スポーツクラブや習い事教室等は増加傾向にあり、運動する場は一定の水準で確保されていると感じる。

ただ、金銭の負担や、送迎の問題などもあり、民間サービスの利用の有無により、二極化が進むことへの危惧がある。

●地域や行政が連携し、全家庭の子どもがクラブ活動を行いやすい環境の実現のため、包括的な対策が必要である。

●高齢者の体を動かす機会・場への参加については、男女間での差や、地域による格差があるため、それぞれに合った対策を講じる必要がある。

### 施策「3-2 心と身体の休養の大切さを理解している人を増やす」について

●休養、睡眠については、他の健康分野に比べ、意識が低いと感じるため、情報の提供、発信を積極的に行うことが大切であると考ええる。

●ライフスタイルの変化や多様化により、各家庭により差が大きくあると感じるため、興味、関心を持てる内容で、情報発信を行い、自然に睡眠や休養への意識を向上させる施策を行う必要があると考ええる。

### 施策「4-1 人と人とのふれあいを大切にし、心地よくつながる環境をつくる」について

●交流の場の形成については、行政で行う施策としては、高齢者への対策がメインになっているのが現状である。多世代への交流ができる環境整備が必要であると考ええる。

●人との交流においては、各々が役割を持って活動することが、健康増進にも

繋がるとされているが、役割を持つ事に抵抗感を感じる人も多く、担い手不足が課題であると考える。

●ライフコースアプローチの観点からも、若い世代のうちから地域活動などに参加してもらうことを促すことで、担い手としての資質が育成され、将来働く世代や高齢世代になった際にも、参加しやすくなるため、若い世代の交流環境の整備が大切であると考える。

#### ●質疑なし

### (2) その他

#### ア 令和8年度健康づくり推進会議の日程について

事務局より現委員については、令和7年度（2025年度）をもって任期満了になる旨を説明し、参考として令和8年度（2026年度）の会議日程について説明。

第1回：令和8年（2026年）7月30日（木）

第2回：令和8年（2026年）10月29日（木）

第3回：令和8年（2026年）2月25日（木）

時間：いずれも午後2時から午後3時30分（※終了時刻については議題等に応じ変更の可能性あり）

場所：しあわせ村 多目的ホール

### 8 閉会